

米国 総合・コアともに小幅加速(08年1月消費者物価)

発表日：2008年2月20日（水）

～景気の急激な減速を背景にインフレの大幅な加速は回避～

第一生命経済研究所 経済調査部
桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

- 1月の消費者物価（総合）は前月比+0.4%と市場予想を小幅上回った。エネルギー価格が同+0.7%と減速したものの、食品価格が同+0.7%と加速した。
- エネルギー・食品価格を除く消費者物価（コア）は前月比+0.3%と市場予想を上回った。財価格（コア）、サービス（コア）の上昇ペースが速まった。自動車価格が下落した一方、衣料品価格、タバコ価格、医薬品の上昇ペースが速まり財価格（コア）は前月比+0.2%と加速した。財価格は価格競争が激しいため安定しているものの、高齢化が進むなかで需要の強い医療などサービス価格の上昇圧力は強い状態が続く中で、ホテルの上昇ペースが速まった。
- 前年比では総合が+4.3%（前月+4.1%）、コアは+2.47%（同+2.44%）と加速した。コアインフレはFRBが物価安定と判断しているレンジを上回って推移しているうえに徐々に上昇ペースが高まっていること、エネルギー・原材料・食品価格が高止まりしていることなどから、FRBはインフレ動向を注視している。しかし、期待インフレ率が落ち着いていることに加えて、景気が下ぶれていることから、インフレがFRBの利下げの妨げになることはないだろう。
- 価格動向に大きな影響を与える競争環境では米国内需要が鈍化する中で、世界的な供給能力の拡大が続いているため、より厳しい価格競争にさらされ続けよう。このような環境では、原材料価格や労働コストが上昇しても価格転嫁は難しく、財価格は緩やかな上昇が見込まれる。一方、高齢化による医療サービス価格の高止まりが続くと見込まれる。以上のことを勘案すると、CPIコアは前年比+2%台半ば程度での推移が見込まれる。PCEコアデフレーターは同+2%台前半での推移が予想される。

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価		消費者物価 (Consumer Price Index)									
	総合	コア	コア	エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品コア	サービスコア	
07/04	+0.3	(+2.6)	+0.199	(+2.3)	+1.3	+0.3	+0.3	▲0.3	+0.6	+0.4	▲0.1	+0.3
07/05	+0.5	(+2.7)	+0.156	(+2.2)	+3.1	+0.3	+0.2	▲0.3	+1.4	+0.3	▲0.1	+0.3
07/06	+0.3	(+2.7)	+0.223	(+2.2)	+0.2	+0.5	+0.3	▲0.4	+0.2	+0.3	▲0.0	+0.3
07/07	+0.2	(+2.4)	+0.228	(+2.2)	+0.1	+0.3	+0.2	+0.4	+0.3	+0.6	+0.1	+0.3
07/08	+0.0	(+2.0)	+0.161	(+2.13)	▲1.7	+0.4	+0.1	▲0.5	▲0.6	+0.5	▲0.0	+0.2
07/09	+0.4	(+2.8)	+0.223	(+2.14)	+1.4	+0.5	+0.3	+0.2	+0.7	+0.4	▲0.0	+0.3
07/10	+0.3	(+3.5)	+0.179	(+2.17)	+1.0	+0.2	+0.2	+0.1	+0.3	+0.5	+0.0	+0.2
07/11	+0.9	(+4.3)	+0.241	(+2.33)	+6.9	+0.4	+0.4	+0.6	+3.5	+0.4	+0.1	+0.3
07/12	+0.4	(+4.1)	+0.224	(+2.44)	+1.7	+0.1	+0.3	+0.1	+1.0	+0.3	+0.0	+0.3
08/01	+0.4	(+4.3)	+0.311	(+2.47)	+0.7	+0.7	+0.2	+0.4	+0.5	+0.5	+0.2	+0.4

(出所) 労働省 (Department of Labor)

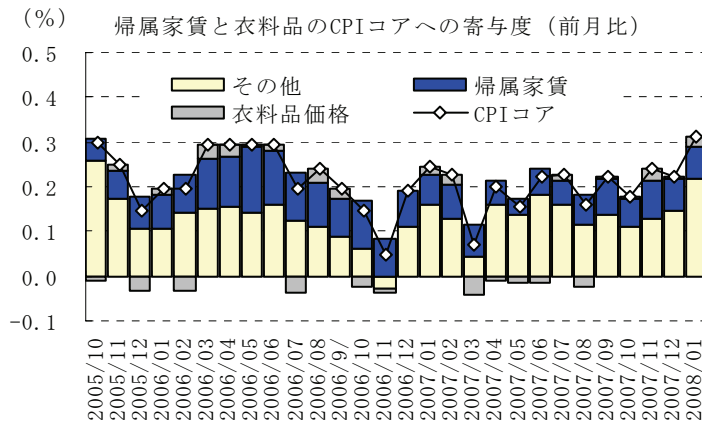
(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

CPIは前月比+0.4%と市場予想を上回った

1月の消費者物価（総合）は食品価格、衣料品、医療等の上昇によって前月比+0.4%と市場予想の同+0.3%を上回り、前月と同率の伸びとなった。エネルギー価格が同+0.7%（同+1.7%）と鈍化したが、食品価格が同+0.7%（前月同+0.1%）と加速した。エネルギーでは燃料油が同+3.7%（同+2.5%）と加速した一方、ガス・電力が同▲0.5%（同+0.1%）下落し、ガソリン価格が同+1.2%（同+2.8%）と鈍化した。

CPIコアは前月比+0.3%と市場予想を上回った

エネルギー・食品を除く消費者物価（コア）は前月比+0.3%と前月から加速し市場予想である同+0.2%を上回った。財価格（コア）、サービス（コア）の上昇ペースが速まった。自動車価格が下落した一方、衣料品価格、タバコ価格、医薬品の上昇ペースが速まり財価格（コア）は前月比+0.2%と加速した。財価格は価格競争が激しいため安定しているものの、高齢化が進むなかで需要の強い医療などサービス価格の上昇圧力は強い状態が続く中で、ホテルの上昇ペースが速まった。



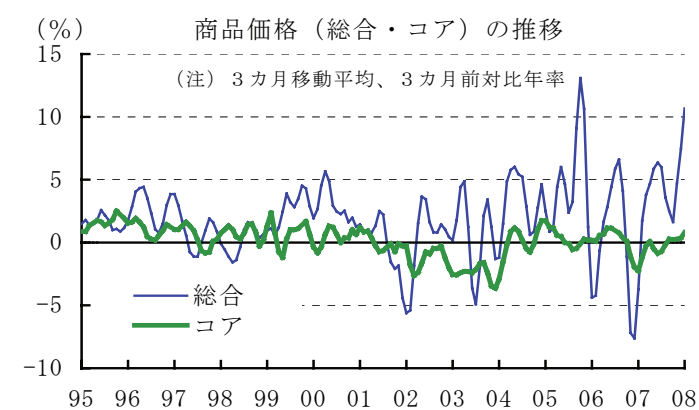
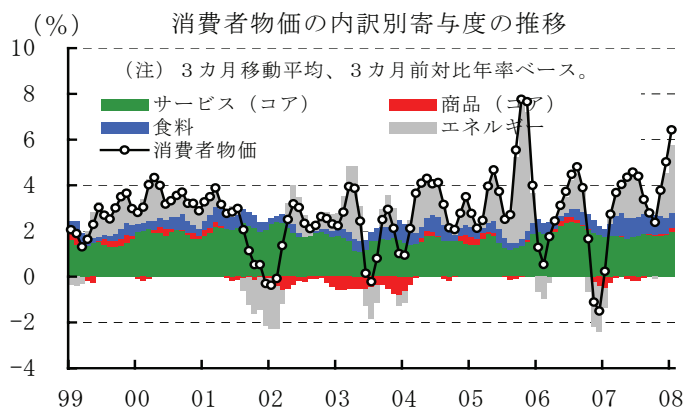
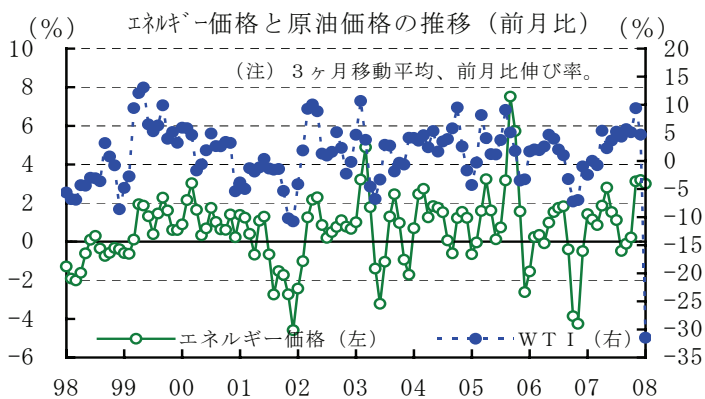
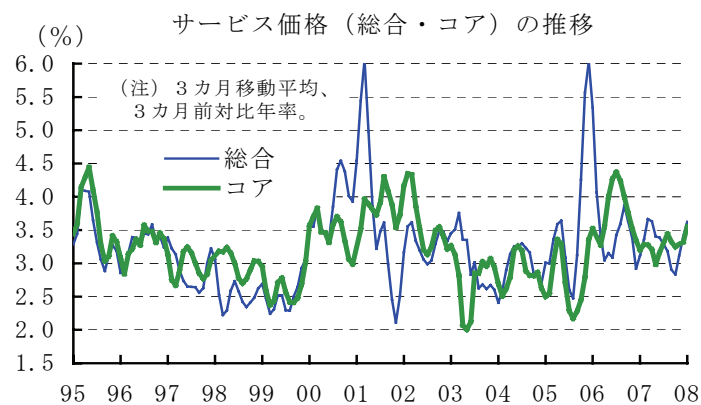
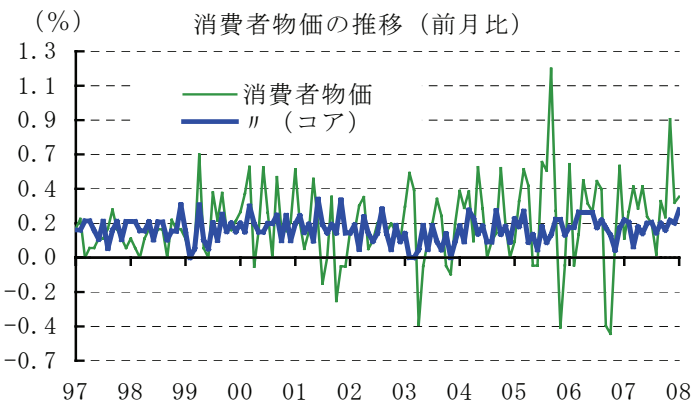
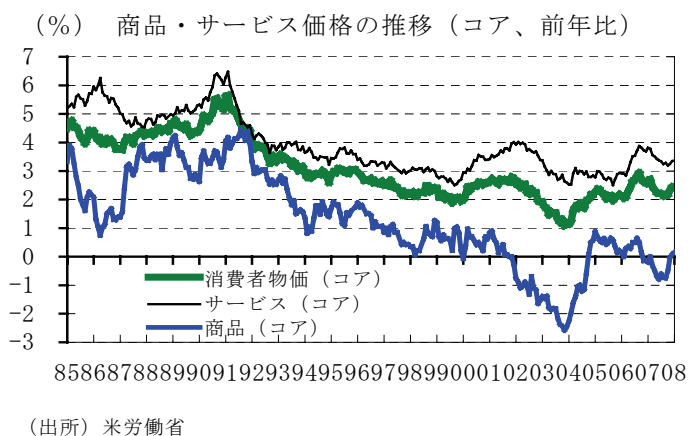
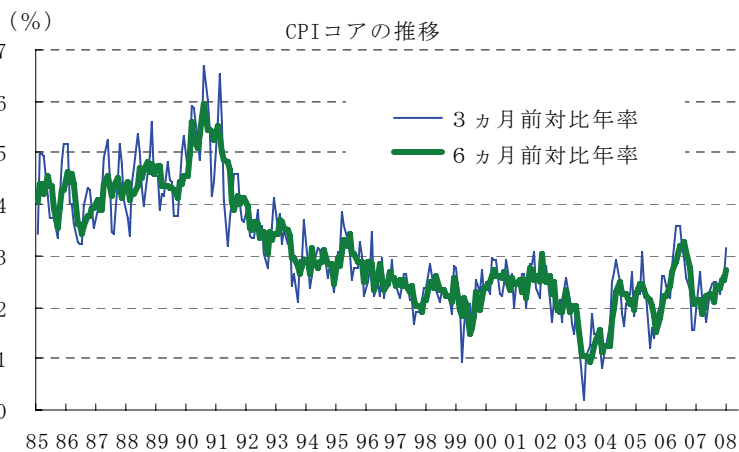
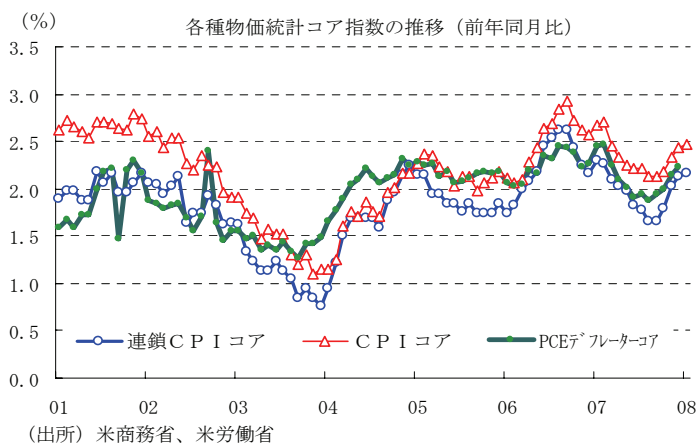
前年比でも上昇ペース加速

各種消費者物価統計の前年比での動向では総合が+4.3%（前月+4.1%）、コアは+2.47%（同+2.44%）と加速した。より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアも+2.16%（同+2.12%）と上昇ペースが速まった。

コアインフレはFRBが物価安定と判断しているレンジを上回って推移しているうえに徐々に上昇ペースが高まっていること、エネルギー・原材料・食品価格が高止まりしていることなどから、FRBはインフレ動向を注視している。しかし、期待インフレ率が落ち着いていることに加えて、景気は下ぶれ低成長となっていることから、FRBの大幅利下げの妨げになることはないだろう。

今後に関しては、賃金の上昇、労働生産性の鈍化が見込まれ、ULC（単位労働費用）は比較的高い伸びが続く公算が大きい。しかし、価格動向に大きな影響を与える競争環境では米国内需要が鈍化する中で、世界的な供給能力の拡大が続いているため、より厳しい価格競争にさらされ続けよう。このような環境では、原材料価格や労働コストが上昇しても価格転嫁は難しく、財価格は緩やかな上昇が見込まれる。一方、高齢化による医療サービス価格の高止まりが続くと予想される。以上のことを勘案すると、CPIコアは前年比+2%台半ば程度での推移が見込まれる。PCEコアデフレーターは同+2%台前半での推移が予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。